

商工会地域の業況は、今までにない厳しさ。来期も依然として厳しさが続き、先行きは不透明!!

—2020年4月～6月期 中小企業景況調査報告書概要—

日銀が7月1日に発表した6月の企業短期経済観測調査（短観）によると、企業の景況感を示す業況判断指数（D・I）は、大企業・製造業がマイナス34となった。リーマンショック後の2009年6月以来11年ぶりの低水準であり、前回の3月調査から26ポイントの落ち込みで悪化幅は過去2番目の大きさとなっている。新型コロナウイルスの感染拡大で世界的に経済活動が停滞している影響が明確に表れた。大企業・非製造業はマイナス17で、前回と比べて25ポイント悪化し、過去最大の悪化幅となった。外出自粛による消費低迷や訪日客の激減、様々なイベントの休止が響いた。中小企業の業況判断指数は、製造業が前回3月調査のマイナス15から30ポイント悪化してマイナス45、非製造業も前回調査のマイナス1から25ポイント悪化してマイナス26となった。製造業、非製造業ともに悪化幅は過去最大のものとなっている。

3か月後の先行きの見通し（2020年9月予測）は、大企業・製造業が今期より7ポイント改善しマイナス27、非製造業は今期より3ポイント改善しマイナス14といずれも改善が見込まれている。ただし、引き続き一定の感染拡大防止策が実施されていることや、感染「第2波」への懸念が強いことから上昇幅は小幅に留まっている。中小企業では製造業が今期よりも2ポイント悪化しマイナス47、非製造業は7ポイント悪化しマイナス33を予測しており、中小企業では先行きも悪化が見込まれており、企業の慎重な見方がうかがえる。

内閣府が2020年6月19日に発表した6月の月例経済報告においては、国内景況は「極めて厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある」と2018年1月以来、2年5か月ぶりに判断を引き上げた。新型コロナ

ウイルスに伴う緊急事態宣言の全面解除で経済活動が徐々に再開し、個人消費や業況判断が上向いたことで内需の面で最悪期は脱したとの認識を示した。しかし、外需も含めた景気全体の底打ちはまだ見えず、感染「第2波」の懸念も残り、回復への道りは波乱含みと思われる。

商工会地域の景況調査においては、今期（2020年4月～6月）の業況に関するD・I値は、製造業が、前期のマイナス39.0から14.0ポイント悪化しマイナス53.0、建設業はマイナス29.2から14.8ポイント悪化しマイナス44.0。サービス業に至ってはマイナス26.7から53.0ポイントと今までにない厳しい悪化幅を示してマイナス79.7となっている。小売業については、前期に12.1ポイントと大幅に悪化した反動もあってかマイナス57.1から9.8ポイント改善してマイナス47.3となっている。それでも、全業種ともマイナス40を超えるD・I値となっており、全体の景況感の厳しさが表れている。

来期（2020年7月～9月期）の業況予測については、製造業が今期実績より9.0ポイント改善しマイナス44.0、サービス業も23.5ポイント改善しマイナス56.2を予測している。しかし、建設業は10.1ポイント悪化しマイナス54.1、小売業も1.2ポイント悪化しマイナス48.5と予測している。

商工会地域の景況感は、全業種ともD・I値がマイナス40を超えており今までにない厳しい状況である。来期についても新型コロナウイルス感染拡大の影響が残り、厳しい状況は続くと思われる。

（中小企業診断士 橋本大輔）

業界天気動向図

| 項目 | 売上 | | | | 採算（経常利益） | | | | 資金繰り | | | |
|-------|------|------|------|------|----------|------|------|------|------|------|------|------|
| | 2019 | 2019 | 2020 | 2020 | 2019 | 2019 | 2020 | 2020 | 2019 | 2019 | 2020 | 2020 |
| 年月 | 7 | 10 | 1 | 4 | 7 | 10 | 1 | 4 | 7 | 10 | 1 | 4 |
| 業種 | 9 | 12 | 3 | 6 | 9 | 12 | 3 | 6 | 9 | 12 | 3 | 6 |
| | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 | 月 |
| 製造業 | | | | | | | | | | | | |
| 建設業 | | | | | | | | | | | | |
| 小売業 | | | | | | | | | | | | |
| サービス業 | | | | | | | | | | | | |

各項目については次により表示した。

| 区分 | 増加 | やや増加 | 横ばい | やや減少 | 減少 | 大幅に減少 |
|--------------|-------|----------|----------|------------|-------------|--------|
| | 好転 | やや好転 | | やや悪化 | 悪化 | 非常に悪化 |
| D I 値（前年同期比） | 20.1～ | 5.1～20.0 | 5.0～△5.0 | △5.1～△20.0 | △20.1～△35.0 | △35.1～ |
| 表示 | 快晴 | 晴れ | 曇り | 小雨 | 雨 | 豪雨 |

今期直面している経営上の問題点

（数値の左は前期構成比、右は当期構成比を記す）

| 業種 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 |
|-------|---------------------------|-------------------------------|-----------------|--------------------------------|
| 製造業 | 1位にあげる問題点 需要の停滞 | 2位 生産設備の不足・老朽化 | 3位 その他 | 4位 製品（加工）単価の低下、上昇難、事業資金の借入難 |
| 前期 | 25.7 | 22.9 | 2.9 | -- |
| 今期 | 34.3 | 22.9 | 11.4 | 5.7 |
| 建設業 | 1位にあげる問題点 その他 | 2位 従業員の確保難、官公需要の停滞、民間需要の停滞 | 3位 13.6 | 5位 材料価格の上昇、材料費、人件費以外の経費の増加 |
| 前期 | 0.0 | -- | 13.6 | -- |
| 今期 | 22.7 | -- | 13.6 | 9.1 |
| 小売業 | 1位にあげる問題点 購買力その他地域への流出 | 2位 消費者ニーズの変化、その他 | 3位 15.8 | 4位 同業者の進出、需要の停滞 |
| 前期 | 15.8 | -- | 15.8 | -- |
| 今期 | 18.4 | -- | 15.8 | 13.2 |
| サービス業 | 1位にあげる問題点 その他 | 2位 需要の停滞 | 3位 利用者ニーズの変化 | 4位 店舗施設の狭隘・老朽化 |
| 前期 | 9.1 | 18.2 | 15.9 | 15.9 |
| 今期 | 28.3 | 26.1 | 17.4 | 10.9 |
| | | | | 4.3 |